

I インターナショナルオフィス全体に関わる報告

1. インターナショナルオフィス

インターナショナルオフィスは、香川大学の国際交流の窓口機関として、2009年4月に設置された。情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流を推進することを目指している。

インターナショナルオフィスは、国際研究支援センター（Center for International Research and Cooperation）、留学生センター（International Student Center）及びグローバルカフェセンター（Global Café Center）の3つのセンターで構成されており、事務組織の国際グループが運営をサポートしている。

さらに、各部局の代表者などからなる、インターナショナルオフィス会議が設置されており、教授会に相当する機能を持ち審議事項などを上程している。

(1) 国際研究支援センター

国際研究支援センターは、2010年4月に設置された。大学の国際戦略に基づき、国際社会に貢献する重点的な国際的研究への支援、海外教育研究交流拠点とのネットワークの強化、部局等による国際的な学術交流の取り組み支援、部局等組織を超えた学内外研究者間の情報連携・共同研究への環境整備など、その役割・機能は多岐に及んでいる。

また、国際協力機構（JICA）、科学技術振興機構（JST）、日本学術振興会（JSPS）などとの連携のもとに、助成事業への応募などを実施する組織である。

(2) 留学生センター

留学生センターの歴史は古く、香川大学における国際交流推進を目的として、2003年4月に学内共同教育研究施設として設置された。インターナショナルオフィスの設置に伴い、2009年4月に新たに配置された。

留学生センターは7つの役割を担っている。

- ① 日本語教育の実施
- ② 留学生に対する日常生活上の指導・助言
- ③ 短期プログラムやスタディ・ツアーへの学生の派遣や受け入れ
- ④ 様々な方法による情報発信
- ⑤ 日本語教育や留学生教育に関する研究
- ⑥ 国際交流促進のための各種団体との協力
- ⑦ 各種の支援活動による留学生の生活の向上

このような支援を実施することにより、多くの留学生が香川大学キャンパスで学び、日本の文化や香川の生活に慣れ親しみ、勉学に集中することができる環境作りを行っていく。そして、彼らが香川大学を自らの学び舎として愛着を持ち、彼らの将来において貴重な留学として輝くものとなるようにしていく。

(3) グローバルカフェセンター

グローバルカフェセンターは、「グローバル・カフェ (Global Café)」の運用によるグローバル人材育成、また、日本人学生派遣プログラムの運用支援、外部国際交流団体・機関との連携や高大接続の場としての役割を担っている。2014年に設立されたイングリッシュ・カフェは、2019年度から名称を「グローバル・カフェ」へと変更し、英語の学習を中心としつつも中国語・フランス語・スペイン語・韓国語等の言語クラスを開講し、さらなる異文化交流活動を推進する施設として新たにスタートを切った。

(4) インターナショナルオフィス教員

(併) オフィス長、国際研究支援センター長、教授、副学長	原 直行
(併) 副オフィス長、グローバルカフェセンター長、教授	和田 健司
(併) 留学生センター長	ロン リム
特命教授	徳田 雅明
客員教授	尾上 能久
准教授	高水 徹
准教授	塩井 実香
非常勤教員	CHEW HUI YAN
非常勤教員	CALDWELL ANDREW JOHN

2. 香川大学の国際化の基本方針と重点戦略課題

(1) 香川大学の国際化の基本方針

◎ 地域に根ざした国際化

- 社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。
- 大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応える。
- 人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

◎ 国際的通用性を備えた人材の育成

- 世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実践する。
- 世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインにつながるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。
- 海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拓き、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

◎ 国際化のための環境整備

- 海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。

- 国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。
- 多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。

(2) 重点戦略課題

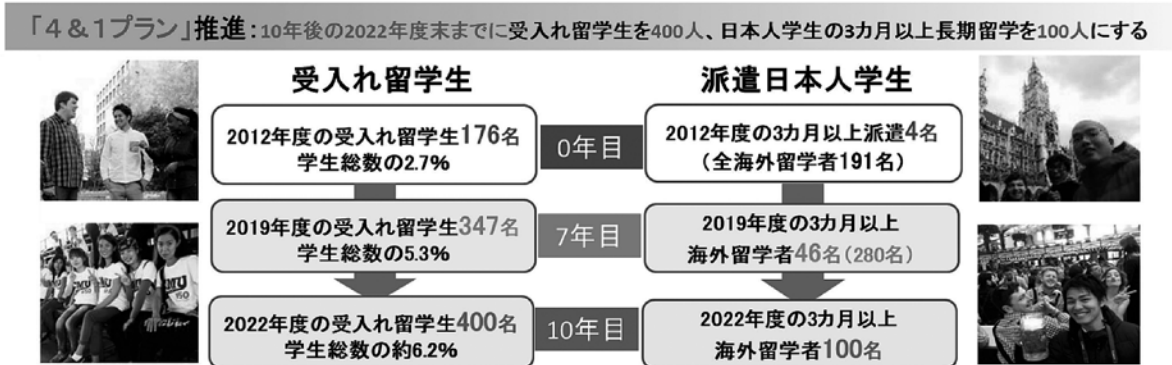
- 海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信
各学部における研究成果や研究テーマの整理データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信
- 地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献
- グローバル人材の育成に向けたプログラム化
 - ① グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映（例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成）
 - ② 協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
 - ③ アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進
- 海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整
- 留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに、「キャンパスの国際化」を実現
 - ① 留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援・協力を得ながら構築
 - ② 多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備

香川大学では、この国際化の基本方針と重点戦略課題に沿った活動を展開している。

グローバル人材育成をより重点的に行うために、平成25年度に留学生の受け入れ促進と日本人学生の海外中長期派遣強化を定量的に示したスローガンとして「4 & 1プラン」を策定した。このプランは、第3期中期目標・中期計画においても、戦略性が高く意欲的な計画として挙げられている。この目標達成のためには、上記重点戦略課題を着実に遂行する必要がある。4 & 1プランについては、次項で詳細に紹介する。

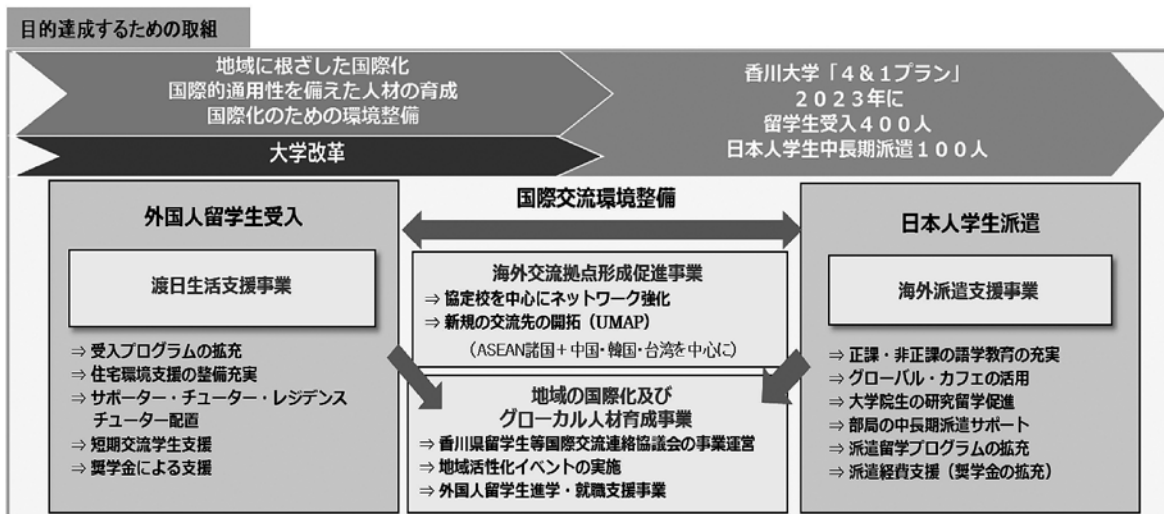
3. 4 & 1 の進捗状況

(1) 4 & 1 プランについて



香川大学のグローバル化を推進することを目指して2013年度に設定した目標であり、10年後の2022年度に留学生受け入れ400名、派遣学生100名（3ヵ月以上）を目指すものである。第3期中期目標・中期計画においても、香川大学の重点項目として挙げられている。これにより、学生のモビリティを高めるとともに、キャンパスのグローバル化を推進することで、グローバル人材育成につなげる。

この4 & 1を推進するために、以下に示す戦略を立て実施している。



【1】 渡日生活支援事業（国際寮の運営、留学生を支援するサポーターやチューターの配置、日本語の授業提供など）を実施している。

【2】 海外派遣支援事業（ネイティブスピーカーによる指導、グローバル・カフェなどでの語学力アップのプログラム提供、各種派遣プログラムの提供など）を立ち上げている。

そして【1】【2】を効率よく実現するために：

【3】 海外交流拠点形成促進事業（ASEAN諸国と中国・韓国・台湾を中心に、協定校の関係強化や増加、同窓会活動の強化、広報活動の強化など）を展開している。

また、香川大学のこうしたグローバル化が地域に還元できるように：

【4】 地域の国際化及びグローバル人材育成事業（グローバル人材の地域企業への就職、地域企業との連携、地域のイベントや国際事業への協力など）を実施している。

4 & 1 プラン・ワーキンググループ（各部局より委員が参加）を立ち上げ、年2～3回程度開き

ながら、短期・中期の方針や行動目標を決定し、その達成に向けて努力をしている。

(2) 4 & 1 プランの2021年度の展開と実績

2019年度末より、既に新型コロナウイルス感染症の影響が出始め、留学生受け入れも、日本人学生の派遣もストップしたため、4 & 1の2020年度の目標達成は難しくなった。そのため対応を協議し、2020年度以降、コロナ対応の代替措置として様々な対応を行っている。

(2)ー1) 留学生受け入れ対応

留学生受け入れについては、以下の図のような対応策を立て、これまで実施してきた。

対応策1：留学生の住宅環境支援としての国際寮整備

対応策2：留学生の生活・学習支援としてのサポーター・チューター・レジデンスチューターの配置

対応策3：海外交流拠点を増やすことによる留学生受け入れ促進

対応策4：短期交流プログラムによる受け入れ促進

留学生受け入れを年間400人に増加する

目標と現状



対応策1 国際寮(住宅環境支援)

- ① 留学生会館(屋島中町:32人):短期滞在
- ② 花園寮(15人):1年まで
- ③ 上之町国際寮(46人):2年まで(混住寮)
- ④ 他の宿舍の活用推進(世戸宿舍など)
- ⑤ 寮の自主的管理運営(レジデンスチューターの配置)



対応策2 留学生の生活・学習支援

留学生生活サポーター	チューター	レジデンスチューター
入学後1カ月のみ	入学後2カ月～1年まで	国際寮入居者の入居期間中
出迎え、入居手伝い、役所の手続きなどの生活開始支援	研究・学習の指導、日本語指導など	国際寮の維持管理 入居者間の連携 地域住民との連携

対応策3 海外交流拠点形成促進

- ① 協定に基づく事業の強化(新たな協定校の開拓)
協定校を100に増やす
- ② 帰国留学生ネットワーク構築(中国、タイ他)
- ③ UMAP(アジア太平洋大学交流機構)の活用
- ④ 国際シンポジウム(チェンマイ、国立嘉義大学など)
- ⑤ 海外への広報の強化
- ⑥ JICA, JSPS, JSTプロジェクトの採択増加

対応策4 短期交流外国人支援

- ① 各部署における留学生の学習指導環境の整備
- ② 短期交流滞在外国人への支援サービス提供
- ③ さぬきプログラムのバージョンアップ
- ④ 英語で提供する科目を増やす
- ⑤ イスラム学生対応強化(ハラルフード、お祈り部屋など)

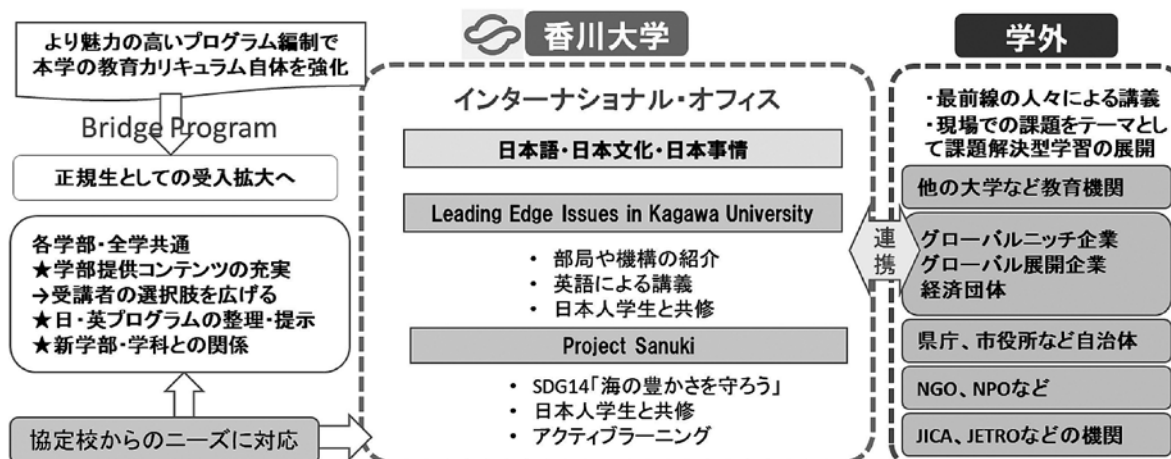
- ◆ 令和2年度末までに、外国人留学生受入325名にする。
- ◆ KPIとしては受入325名+派遣70=395名を目標とする。

- ◆ 継続して現在の方策を実施する
- ◆ 住宅や奨学金、生活支援の強化
- ◆ 地域連携戦略室と協働して就職支援を進める
- ◆ 正規生(学部生・大学院生)の増加を目指す
- ◆ 「日本大学連合学力試験(JPUUE)の活用を検討
- ◆ JICA新留学プログラムの活用

新型コロナウイルス感染症の影響をどう克服するか

インターナショナルオフィスは独自の学生を持たない。従って部局との連携で進めることが大切である。そのためにインターナショナルオフィス会議で議論をし、連携・協力体制を構築している。ただし、インターナショナルオフィスも独自のプログラムを持つ。以下にそのプログラムを示す。日本語・日本文化・日本事情のほか、部局や機構の卓越した研究や教育活動を紹介する「Leading Edge Issues in Kagawa University」、さらにSDG14「海の豊かさを守ろう」をアクティブラーニングする「プロジェクトさぬき」等を提供している。

国際オフィスと学部が協働する ～ さぬきプログラム ～



新型コロナウイルス感染症の蔓延により停滞した受け入れをカバーする代替措置として、以下の表に示すアクションプランを作成し、全部局の協力を受けて実施した。

400人の留学生受け入れ：コロナ対応の代替措置	
1	オンライン留学を許可し授業を提供する
2	国際オフィスのさぬきプログラムのオンライン配信
3	留学生が興味を持つ英語による科目・コースを新設する
4	COIL (Collaborative Online International Learning) 型アクティブラーニングのGlobal Classroom を開講する
5	Webinarを開催する
6	2021年8月開催の香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学のシンポジウムを開催。プレイベントとして研究Workshopや学生交流を企画する
7	オンライン相談などで在籍留学生を支援する
8	新しく日本大学連合学力試験JPUE制度を導入する
9	UMAP (アジア太平洋大学交流機構) 制度の活用
10	協定校を中心にWeb広報を充実する
11	JICAやJSTプログラムの活用を拡大する
12	留学予定となっている学生の受け入れのための準備を進める
13	JICAやJSTプログラムの活用を拡大する

2021年度の中期計画のKPI(Key Performance Indicator) での留学生受け入れ目標値は360名であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、新規留学生の受け入れは大幅に減り、在校生と合わせても137名であったため、目標を223名下回った。そのため、さぬきプログラムのオンライン配信やCOILなどオンラインで代替した。

(2)ー2) 日本人学生派遣対応

日本人学生の3ヵ月以上の派遣については、以下の図のような対応策を立て、これまで実施してきた。

対応策1：グローバル・カフェのプログラムを充実することで、留学の気持ちを高める。

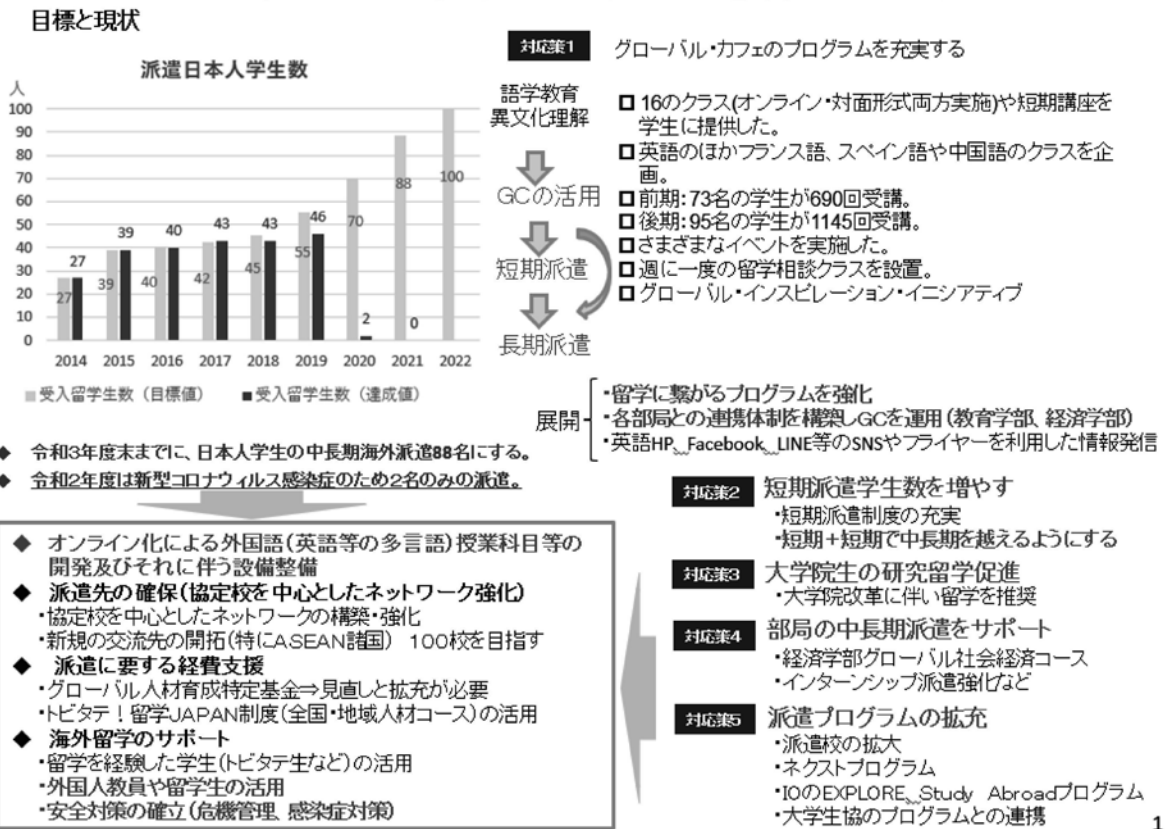
対応策2：中長期につながる短期の派遣学生数を増やす。

対応策3：大学院生の研究留学を促進する。

対応策4：部局の中長期派遣プログラムをサポートする。

対応策5：インターナショナルオフィスが主催・関与する派遣プログラムを推進する。

日本人学生の海外派遣(3ヶ月以上)を年間100人にする



(ア) Exploreプログラム

◇ ブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ・ダルサラーム国)およびチェンマイ大学(タイ王国)において、1年を限度とする留学制度。

◇ 他の協定校(特にASEAN+中国・韓国・台湾地域)に拡大することを目指す。

(イ) 短期語学研修(Study Abroad)

◇ 2週間から1ヶ月程度、西オーストラリア大学(オーストラリア)またはブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ)で語学研修を受けるプログラム。

◇ 「生きた英語力」と「国際感覚」を高めることが出来る。

◇ オンライン留学を実施している(5名参加)。

(ウ) 海外体験型異文化コミュニケーション(文化研修)

◇ 全学共通科目のひとつ。

◇ インターナショナルオフィス教員が引率して、8月~9月におよそ2週間実施する海外異文

化体験の入門プログラム。

(エ) トビタテ！留学JAPAN（全国コース、地域人材コース）

◇ 28日～2年までの期間の海外留学を官民協働で支援する奨学制度プログラム。全国コースや、地域人材コースがある。

◇ 第14期を募集したところ2名が応募している。

(オ) 大学生協のプログラム

◇ 語学研修プログラム等、大学生協の派遣プログラムと連携している。

◇ 留学フェアなどを共同で開催している。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により停滞した日本人学生の海外派遣をカバーする代替措置として、以下の表に示すアクションプランを作成し、全部局の協力を受けて実施した。

100人の日本人学生の中長期派遣：コロナ対応の代替措置	
1	Global Café でNative教員の提供するclassroomを開催する（大学内留学）
2	Global Café で留学生と交流するイベントを開催する
3	次年度以降の留学に向けた準備を促す
4	海外の協定校等が提供するオンライン留学プログラムに参加する
5	COIL（Collaborative Online International Learning）型アクティブラーニングのGlobal Classroom を開講する
6	香川大学主催のWebinarを企画し参加を促す
7	協定校等が主催するオンラインのコースやWebinarに参加する
8	オンラインの国際シンポジウムや国際学会に参加する
9	2021年8月開催の香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学のシンポジウムを開催。プレイベントとして研究Workshopや学生交流を企画する
10	留学生と共修する Leading Edge Issues in Kagawa University やプロジェクトさぬきを開講
11	英語 Presentation Contest 等の活動に参加する
12	ポストコロナにおける留学機会の保障と留学目的の多様化に対応するために相手先大学との協定を整える
13	留学機運醸成のための高大接続

2021年度の中期計画のKPI（Key Performance Indicator）での中長期派遣の目標値は88名であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により完全に止まってしまった。そのような中、オンライン留学をした学生は13名であったため、目標を75名下回った。また、グローバル・カフェでのネイティブ教員の提供するオンラインクラスに参加するなどの活動などで代替を行った。

(3) 国際研究支援センターの活動

(ア) 協定校の増加

◇ 協定校を増やし現在103の大学・機関と協定を締結している。

◇ このうち、チェンマイ大学（タイ国）、ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ国）、サボアモンブラン大学（フランス）を、香川大学海外教育研究拠点校として重点化し、複数の学部が交流活動を展開している。

◇ また103の大学・機関の中には交流活動が停滞している所もあり、その活性化を目指している。

(イ) 国際共同研究の支援

◇ 研究戦略室と国際研究支援センターとが連携して、学内研究者の研究成果を可視化し蓄積する。

◇ アジアの国々の大学・研究機関の連携に活用し、国際共同研究を第2期中期目標期間と比較して30%以上増加する。

◇ 香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学

3大学合同国際シンポジウムを契機として、3大学の国際共同研究を活性化すべく、国際共同研究等援助事業を実施し、6件の研究助成を行った。(実績)

(ウ) 国際シンポジウム開催

◇ 2021年8・9月に、新型コロナウイルス感染症の蔓延により1年延期した香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学3大学合同国際シンポジウムを「Trilateral Symposium on SDGs」としてオンライン開催した。(実績)

◇ 2021年10月22日～24日に、EJEA Conference 2021 in Kagawaをオンラインと一部（ポスターセッション）ハイブリッド式で開催した。(実績)

(エ) JICA、JST、JSPS等との連携プロジェクト

◇ JICAとは、JICA草の根技術協力事業やJICA研修員受け入れ事業など多くの事業で連携している。JICA四国センターが高松市にあることから、密な連携が行われている。

◇ JSTとは、さくらサイエンスプログラムにより、海外からの招へい者受け入れを複数行っている。

◇ JSPSとは、アジア・アフリカ拠点形成事業等を実施している。

(4) SDGsの推進

(ア) 持続可能な開発目標（SDGs）とは

◇ 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。

◇ 先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標を設定。(詳細：次頁。17の目標の下に、更に細分化された169のターゲットがある。)

◇ 「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し（＝人間の安全保障の理念を反映）、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組む。

◇ 全てのステークホルダー（先進国、途上国、民間企業、NGO、大学等有識者、等）の役割を重視している。

協定大学・機関の国別分布

アジア (62%)		ヨーロッパ (23%)	
中国	23	フランス	9
韓国	7	ドイツ	5
台湾	6	イタリア	2
タイ	6	スペイン	2
インド	4	チェコ共和国	1
インドネシア	4	スウェーデン	1
カンボジア	3	トルコ	1
ブルネイダルサラーム	2	イギリス	2
バングラデシュ	2	フィンランド	1
ベトナム	2	ロシア	1
ネパール	1	北アメリカ (10%)	
ミャンマー	1	アメリカ	9
マレーシア	1	カナダ	1
シンガポール	1	南アメリカ (2%)	
オセアニア (3%)		ブラジル	1
ニュージーランド	1	ペルー	1
オーストラリア	2	計	103

(イ) 今後の活動をSDGsに関連付ける

- ◇ 香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学 3 大学合同国際シンポジウムを「Trilateral Symposium on SDGs」として、SDGsを共通のテーマとしてオンライン開催した。(実績)
- ◇ 2021年度のプロジェクトさぬきでSDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」に関するプロジェクトを前年度同様に推進した。(実績)
- ◇ JICAやJSPSの活動をSDGsの目標と関連付けて実施する。



4. 2021年度インターナショナルオフィス年間行事（2021年4月～2022年3月）

行 事		協定の締結・更新
4月	新入学部学生ガイダンス（動画配信）	13日 本学農学部及び大学院農学研究科と国立嘉義大学農学院との学術交流協定に関する実施細則の更新
	10日 新入留学生ガイダンス（上之町国際寮／対面実施）（動画配信／留学生会館・花園寮）	16日 本学とサボア・モンブラン大学との学術交流協定書等の更新
5月	11、25日 International Lunch（オンライン）	25日 本学と聖公会大学校との学術交流協定書等の更新
	26日 香川大学&大学生協 合同留学フェア（オンライン）	26日 本学と東西大学校との学術交流協定書等の更新
6月	1、8、15、22、29日 International Lunch（オンライン）	15日 本学とシラバコン大学との学術交流協定書等の更新
	17日 グローバル・カフェ オーストラリアイベント（オンライン）	
7月	6、13、20、27日 International Lunch（オンライン）	4日 本学と南京農業大学との学術交流協定書等の更新
	7日 グローバル・カフェ ハワイイベント（オンライン）	29日 本学医学部及び大学院医学系研究科とチェンマイ大学医学部及び大学院医学系研究科との学術交流協定に関する実施細則の更新
	9日 渡辺エンタープライズ様からの留学生への野菜支援	
	14日 高松出入国在留管理局との行政懇談会	
	21日 グローバル・カフェ Virtual Global Café（オンライン）	
8月	21日 ホームビジットオンライン交流会（オンライン）	
9月	18日 三木高校インターンシップ（オリエンテーション・留学生会館訪問）	1日 本学とチェンマイ大学との学術交流に関する一般的覚書の更新
		5日 本学法学部及び大学院法学研究科と華東政法大学との協定等の更新
10月	5日 グローバル・カフェ スイスイベント	
	9日 三木高校生インターンシップ（グローバル・カフェの業務等について）	
	22～24日 EJE Conference 2021 in Kagawaを共同主催（オンライン）	
	26日 グローバル・カフェ ハロウィンイベント（ハイブリッド）	
11月	2、9、16、30日 International Lunch	
	4日 三木高校インターンシップ（医学部訪問）	
	11日 グローバル・カフェ 世界の収穫祭イベント	
	13日 三木高校インターンシップ（ハラル対応等）	
	17日 2021年度第1回グローバル・インスピレーション・イニシアティブ（オンライン）	
	26日 渡辺エンタープライズ様からの留学生への野菜支援	
	30日 グローバル・カフェ スコットランドイベント	
12月	7、14、21、27日 International Lunch（ハイブリッド）	1日 本学教育学部とクライストチャーチ工科大学との学術交流協定書等の更新
	8～14日 International Week	8日 本学経済学部及び大学院経済学研究科と国立政治大学社会科学学院との研究教育交流に関する実施細則の更新
	10日 サボアモンブラン大学とのオンライン交流会	19日 本学と中国海洋大学との学術交流協定書等の更新
	11～12日 第3回JSPS研究拠点形成事業国際セミナー（TRPNEP：Transdisciplinary Research and Practice for Reducing Environmental Problems）を共同主催（オンライン）	19日 本学工学部及び大学院工学研究科と宝鶏文理学院化学化工学院との学術交流協定書等の更新
	12日 第7回英語プレゼンテーションコンテスト三木高校インターンシップ	
	14日 ミニ模擬国連	
	18日 TOEIC S&Wテスト実施	
	20日 グローバル・カフェ 年末パーティ	
1月	11、18、25日 International Lunch（ハイブリッド）	16日 本学と長春理工大学との学術交流協定書等の更新
	17日 グローバル・カフェ マレーシア映画イベント第1弾	
	18日 グローバル・カフェ マレーシア映画イベント第2弾	
	20日 学長主催外国人留学生交歓会（新年会）	
	21日 三木高校インターンシップ（グローバル・カフェイベント企画案提出）	
	26日 2021年度第2回グローバル・インスピレーション・イニシアティブ（オンライン）	
	27日 渡辺エンタープライズ様からの留学生への野菜支援	
2月	16日 2021年度後期さぬきプログラム修了式	8日 本学工学部及び大学院工学研究科とミュンヘン工科大学工学系学部との学術交流協定書に関する実施細則の更新
		13日 本学とミュンヘン工科大学との学術交流協定書等の更新
		19日 本学とカリフォルニア大学デービス校カリフォルニア大学理事会との学術交流協定書の更新
3月	5日 第17回外国人留学生作文コンテスト表彰式	19日 本学と国立政治大学との学術交流合意書等の更新
	7日 三木高校インターンシップ（最終報告書提出）	29日 本学とセントピーターズバーグ大学との学術交流協定書の更新
	30日 三木高校インターンシップ成果発表会	29日 本学農学部とカリフォルニア大学デービス校農学及び環境科学部間の学生学術交流協定の締結
		31日 本学工学部及び大学院工学研究科と北京師範大学化学学院との学術交流協定書等の更新

5. 1st Trilateral Symposium on SDGs を合同開催

2021年8月31日(火)から9月22日(水)を会期として、香川大学がホストとなり、“Trilateral Symposium on SDGs”を開催した。本会合は、本学がチェンマイ大学(タイ)と合同で開催していたシンポジウム、および、国立嘉義大学(台湾)と合同で開催していたワークショップを合流させる形で形成されたシンポジウムであり、SDGsに焦点を当てることとした。元々は、2020年夏に本学において対面での実施を予定していた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、2021年に延期、さらにオンライン形式での実施へと形態を変更して実施されることとなった。

セッションの構成は、全体でのメインセッション、Sustainability & Food、Sustainability & Technology、Sustainability & Society、Sustainability & Healthの各セッション、そして学生セッションとなっており、これらのセッションには延べ400名以上の参加があった。

メインセッションにおいては、3大学の学長による挨拶、それぞれの紹介動画、調印式、ディスカッションが実施された。4つの学術セッションにおいては、最大70名の規模で口頭発表及び活発なディスカッションが行われた。学生セッションの参加者は85名で、5つのサブセッションに分かれてそれぞれのチームが準備及び発表に取り組んだ。

上記の各セッションはすべてオンラインにより実施されたが、翌2022年には対面形式による第2回の本シンポジウムが検討された。しかしながら、対面実施は残念ながらまだ望ましくない状況であると判断し、2023年夏に延期することとした。

本シンポジウムの詳細については、メインセッションの内容、口頭発表の概要及びアブストラクト、学生セッションの報告、関連するデータ等を含め、インターナショナルオフィスジャーナル第13号(1st Trilateral Symposium on SDGs特集号)として2022年3月31日に発刊された。

6. 学長・インターナショナルオフィス長表敬訪問及び協定締結・更新関連行事

例年、20件程度の表敬訪問を受けているが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置による海外からの受け入れが困難な状況下で、表敬訪問を受けることができなかった。なお、2021年度は、初めての試みであるオンライン調印式2件を含め、合計3件の調印式を実施した。

■2021年4月16日

学術交流協定に係るオンライン調印式

出席者：

- ・サボア・モンブラン大学(フランス) Philippe Galez学長 ほか
- ・在リヨン日本領事事務所所長 倉富健治領事
- ・香川大学 笥善行学長 ほか

概要：大学間学術交流協定の締結(更新)



■2021年4月21日

連携協力協定に係る調印式

出席者：

- ・JICA四国センター 小林秀弥所長 ほか
- ・香川大学 笥善行学長 ほか

概要：香川大学とJICA四国との連携協力の推進に関する覚書の締結（更新）



■2021年9月1日

連携協力協定に係るオンライン調印式

出席者：

- ・チェンマイ大学（タイ） Niwes Nantachit学長 ほか
- ・国立嘉義大学（台湾） Chyung Ay学長 ほか
- ・香川大学 笥善行学長 ほか

概要：Trilateral Symposium on SDGsに係る協力協定の締結



7. インターナショナルウィーク

2021年12月8日（水）～12月14日（火）に、異文化理解促進のための講演を中心としたイベントとしてInternational Weekを開催した。

	発表者	テーマ	時間
12月8日(水)	Jaruwan Kongbantad Suwapith Kunnarat	Unique Thailand	13時～14時
	Mathew Katch	Cultural Perfectives within Translation of Manga, Movies, and Video Games.	18時～19時
12月9日(木)	MORIKAWA Mitsuyo	International Sea Voyage	12時～13時
12月10日(金)	Judith Mikami	Living in a Globalized World	12時～13時
	サボア・モンブラン大学とのオンライン交流 Adrien Badel教授 Sylvie Neyertz教授		18時～19時
12月12日(日)	第7回英語プレゼンテーションコンテスト 第3回英語俳句コンテスト表彰式		13時～16時 (対面)
12月13日(月)	Chew Hui Yan	The Multicultural Malaysia	12時～13時
	SHINOHARA Noriko	Experiencing Different Cultures	18時30分 ～19時30分
12月14日(火)	ミニ模擬国連		18時～19時 (対面)

(1) 多文化テーマ講演

異文化を体験してきた方々をゲストスピーカーとして招き、幅広いテーマに関するプレゼンテーションをオンラインで行った。香川大学からはタイの留学生2名のほか、大学教育基盤センター教員2名、インターナショナルオフィス教員1名が担当した。その他学外の方2名によるプレゼンテーションがあった。

オンラインでのプレゼンテーションには日本人学生31名、留学生3名、教職員30名、学外者8名の計72名が参加した。

(2) 第7回英語プレゼンテーションコンテスト

2021年12月12日(日)に“Coexisting in a Multicultural Society”(多文化共生社会)をテーマとして第7回英語プレゼンテーションコンテストを開催した。日本人学生13名、留学生6名(中国、タイ、セネガル、バングラディシュ)の計19名が、中級と中上級の2つのグループに分かれて1人5分以内の発表を行った。

多くの発表はお互いの文化を認め合い、違いを受け入れて生活をするべきだとの主張を、宗教、食べ物、スポーツ、家族関係など様々な視点から述べるというものであった。自分のアイデンティティを扱った発表や日本で感じる違和感について率直に述べた留学生の発表もあった。



プレゼンテーションの様子



集合写真

(3) 第3回英語俳句コンテスト

Ian Willey大学教育基盤センター准教授の協力を得て、第3回英語俳句コンテストを実施した。イベントに先立ち、10月に英語俳句コンテストのオリエンテーションをオンラインで配信した。計54名からの俳句の提出があり、審査には在アメリカの俳人、Suzan Antolin氏とWilley准教授が当たった。入賞作品はオンライン英語俳句ジャーナルに掲載されている。なお、2021年12月12日(日)の英語プレゼンテーションコンテストにおいて、当英語俳句コンテストの表彰式も併せて行った。

(4) ミニ模擬国連

2021年12月14日(火)に「児童労働」をテーマに、ミニ模擬国連を開催した。日本人学生5名、留学生4名(ルワンダ、ブルンジ、セネガル、ブラジル)の計9名が、9ヵ国(ブラジル、チリ、デンマーク、インド、ケニア、北マケドニア、ノルウェー、ウクライナ、アメリカ合衆国)の代表者として参加し、実際の国連における会議と同じように議論、交渉し、決議を採択するまでの一連の流れを、簡略化して行った。

第1セッションでは、各国の代表者が自国の問題点を提起する「ポジションスピーチ」を行った。第2セッションでは、各国から挙げられた主張を元に、自国の政策を順番に表明する「公式討議」に移り、その後一定の時間、他の代表者と自由に交渉を行う「非公式討議」が行われた。最後のセッションでは、各国の代表者から、法律・教育・経済の観点からの解決策が提出され、投票を行った。過半数以上の賛成により決議案として採択されるが、全ての解決策が可決される結果となった。

来年度以降も活動を継続・発展させるとともに、近い将来の模擬国連会議への参加を検討している。



ポジションスピーチの様子

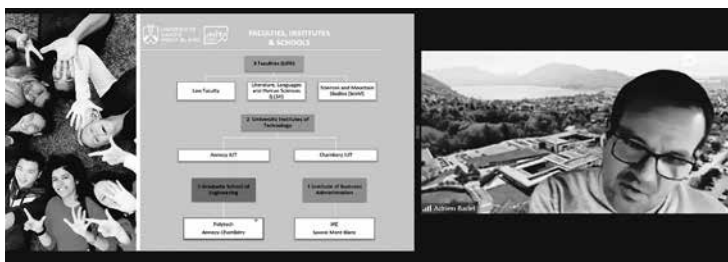


集合写真

(5) サボア・モンブラン大学とのオンライン交流イベント

2021年12月10日(金)にサボア・モンブラン大学(以下USMB)とオンラインで交流イベントを開催した。先方からはPolytech Annecy Chambéry(ポリテク・アヌシー・シャンベリー)の国際担当副学部長Adrien Badel(アドリアン・バデル)教授とIUT Chambéry(IUTシャンベリー)の国際担当 Sylvie Neyertz(シルヴィー・ネイエルトツ)教授が出席し、USMB全般の概要説明と各キャンパスについての紹介があった。香川大学から教職員15名、学生2名の計17名が参加した。

USMBと本学の交流は、全学部へと展開を始めたところでコロナ禍によってトーンダウンを余儀なくされているが、4月の協定更新式と今回のイベントで、交流の意義を改めて示す取り組みとなった。



バデル先生による
ポリテク・アヌシー・シャンベリーの紹介



ネイエルトツ先生による
IUTシャンベリーの紹介

8. 学長主催外国人留学生オンライン新年会

2022年1月20日(木) 学長主催外国人留学生交歓会(新年会)

各キャンパス(幸町、三木町医学部、林町、三木町農学部)の会場をオンラインで接続し、学長主催外国人留学生交歓会(新年会)を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。本学の外国人留学生、教職員等、約70名が参加した。

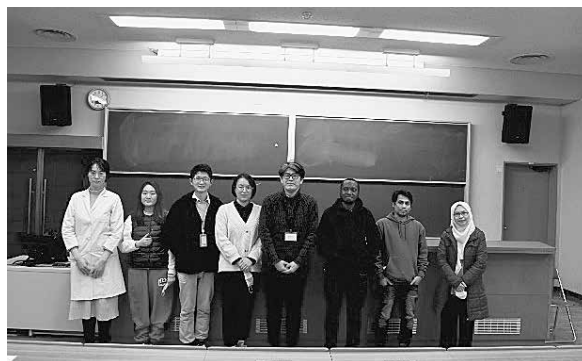
この行事は、学長主催により、母国を離れ異国の地で勉学に励んでいる本学の外国人留学生を励ますとともに、留学生相互、教職員及び地域の方々等関係者との交流の輪を広げる機会として毎年開催されている。

今年度は、コロナ禍のため、例年のように留学生が一同に会して開催することを避け、各キャンパスで設定した会場間をオンラインで接続し、また、各会場においては、三密を避け、マスクを着用し、換気・消毒等、新型コロナウイルス感染防止策を徹底して実施した。

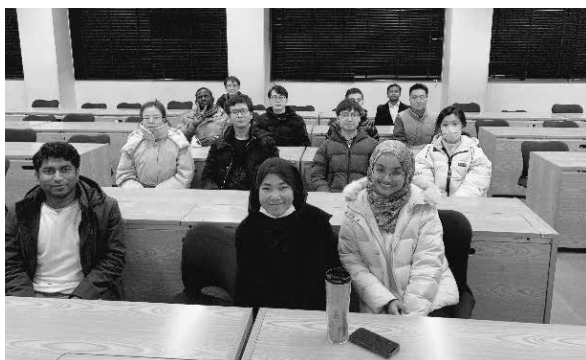
留学生の司会進行のもと、寛学長及び原副学長による激励のことは、留学生代表の挨拶により開始された。そして、今年のメインプログラムとして、学生によるパフォーマンス（母国の新年や料理を紹介した動画、詩の朗読、歌等）、が披露された。また、「おたのしみ」では、留学生に対して、学長から「お年玉」として希少糖ドーナツがプレゼントされた。



幸町キャンパス集合写真



三木町医学部キャンパス会場の集合写真



林町キャンパス会場の集合写真



三木町農学部キャンパス会場の集合写真

9. グローバルクラスルーム

ブルネイダルサラーム大学との連携によるGlobal Classroomの実施

新型コロナウイルス感染症の流行が収束の兆しを見せない中、昨年度に引き続き、ブルネイダルサラーム大学およびマヒドン大学（タイ王国）と共同で、COIL（Collaborative Online International Learning）型のオンライン国際共同講義「Global Classroom」を開講しました。昨年度の学部教育レベルでの試行、および大学院レベルでの本格実施の成果を受け、今年度は2022年1月12日から3月7日まで実施されました。香川大学からは、コース全体のコーディネーターを香川大学前副学長の徳田教授が務め、医学部国際交流委員会委員長の和田教授、および公衆衛生学のNgatu准教授がファシリテーターとして学生をサポートしました。昨年度の本格実施（2020年1月～2月）では、香川大学からは大学院留学生1名の参加にとどまりましたが、今回は日本人医学部学生1名を含む8名が参加し、盛況となりました。特に、外国人大学院留学生の参加が顕著であったことが特筆されます。

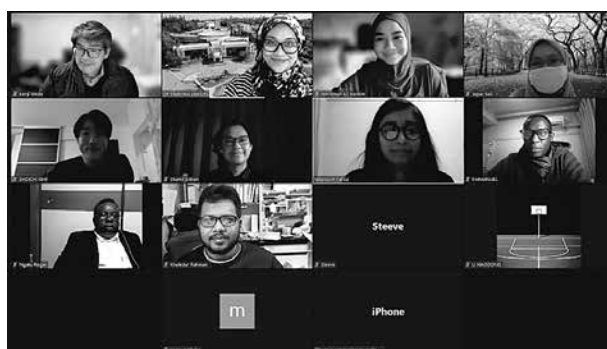
下表にスケジュールを示しましたが、初回のブルネイ側のファシリテーターであるDr Shahrinawati Hj Sharbiniによるガイダンスに始まり、続いて香川大学KUから2件、UBDから2件、

ブルネイ保健省MOHから2件、さらにマヒドン大学MUから1件の、計7件の講義が行なわれました。特に今年度は最終回で、生活習慣病の一つとしてMental Healthが講義されたことが特筆されます。全講義終了後、講義の評価を実施するとともに、受講学生にレポートの提出を求めています。各講義は反転授業（flipped learning）の形式をとっており、講義の数日前に教材と参考文献、簡単なクイズが提示されます。受講生は事前に資料を読み込んでクイズに解答しなければなりません。講義はZoomにて60分程度、遠隔で実施されました。特に講義の後半ではZoomのブレイクアウトルーム機能を活かし、受講学生とファシリテーターが幾つかの小グループに分かれて講義内容について論議する機会が設けられたことが特徴的です。さらに講義後にはオンラインで質問が提示され、学生はこれらを制限時間以内に解答する必要があります。

こうした試みは、COVID-19禍で大きな打撃を受けた国際交流活動を補完するだけでなく、国際水準の英語での教育機会の提供や、香川大学学生の国際交流への関心の喚起にもつながると期待しています。

以上、ブルネイダルサラーム大学と、「生活習慣病」をテーマに、Global Classroomを実施しましたが、いよいよ定着してきた感があります。コロナ禍収束後も留学の代替を超えた顕著な効果が期待できることから、レギュラー化、および正式科目化を図る予定です。

最後に、関連の皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。



DATE	SPEAKER(S)	TOPIC	UNIVERSITY/ DEPARTMENT
12.1.22	All conveners	Introduction to the course	All
19.1.22	Dr Nik Tuah	Life course approach of NCD's	UBD, BRUNEI
26.1.22	Prof Masaaki Tokuda	Epidemiology and control of common NCD's: DM.	KU, JAPAN
2.2.22	Prof Ngatu Roger Nlandu	NCDs as High-Risk Factor for Severe COVID-19	KU, JAPAN
	Dr Sharima Sharbini	Epidemiology and control of common NCD's: Chronic Respiratory Disease (CRD).	UBD, BRUNEI
9.2.22	Dr Ong Sokking	Epidemiology and control of common NCD's: Cancer.	MOH, BRUNEI
16.2.22	Assoc. Prof. Kwanjai Amnatsatsue	Epidemiology and control of common NCD's: Chronic Respiratory Disease, CVD.	MU, THAILAND
22.2.22	Dr Abang Bennett	Epidemiology and control of common NCD's: Mental Health (MH)	MOH BRUNEI

10. グローバル・インスピレーション・イニシアティブ開催

インターナショナルオフィスの新たな企画としてグローバル・インスピレーション・イニシアティブを実施した。このイベントは、学生の海外留学機運を醸成し、地域のグローバル化に寄与することを目指し、対面とオンラインの同時配信によるハイブリッド形式で2回開催した。

第1回 2021年11月17日(水)

学生がグローバルな視点から学修やキャリア形成を考える機会を提供することを目的として「留学体験者による体験報告」と「グローバル展開している企業の講演」の2部構成で実施しました。第1部の留学体験談では、トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムに採用された学生2名より、それぞれの留学の動機・概要、コロナ禍という特別な状況下での様々な経験とそこから得られた学び、今後の人生にける想い等、について発表があった。第2部では、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社グローバル事業推進部の小倉 悟部長より、「グローバルビジネスで求められる人財の変化」というテーマで、損害保険業界の変化と求められる人財像、グローバルで働くとは？等についてご講演があった。



第2回 2022年1月26日(水)

留学を経験した学生からの体験報告と、グローバルに活躍されている方の知見に触れることを通して、学生がグローバルな視点から学修やキャリア形成を考える機会を提供することを目的として「留学体験者による体験報告」と「グローバルに活躍されている方の講演」の2部構成で実施しました。第1部の留学体験談では、一般財団法人日欧産業協力センターが主催するヴルカヌスプログラムで2022年4月からインターンシップ留学を予定している学生から、学部生時代のドイツ留学での経験や反省点、それを踏まえて帰国後に取り組んできたこと、ヴルカヌスプログラムへの応募を通して得た知見等について発表がありました。第2部では、小豆島観光協会事務局長の塩出慎吾氏から、「Be Free～世界で通用する人材になるには～」というテーマで、学生時代や就職後の留学経験、就職した会社での仕事、フリーランスとしての諸外国での実績と暮らし、小豆島へ移住の動機と現在の仕事、小豆島観光の今後の方向性等についてご講演いただいた。



11. 独立行政法人国際協力機構（JICA）との連携

2021年度におけるJICAとの連携は、JICAから本学へ出向職員を中心に、JICA特に四国センターと連携して以下の業務を行った。

(1) 教育業務

- ① 全学共通科目「国際協力論A」「国際協力論B」
- ② さぬきプログラム関連講義「初級日本事情b」
- ③ 医学部看護学科「看護と国際社会」創造工学部「地域国際活動論」出講

(2) 国際交流業務

- ① JICA四国との覚書締結に関する業務
- ② JICA事業に関する本学関係者とJICAとの連携調整
- ③ JICA事業提案に関する助言
- ④ JICA事業で受け入れた研修員（留学生）への助言
- ⑤ 途上国への留学を希望する学生への指導助言
- ⑥ 安全情報の収集と提供
- ⑦ トビタテ！留学JAPAN「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」における地域コーディネーターとしての協力

(3) JICAとの協働事業

2021年度は、新型コロナウイルス感染症のためすべてオンライン方式での実施となった。

- ・ JICA国別研修（インド）「全インド医科大学人材育成研修」 14名
- ・ JICA青年研修「パキスタン/防災」 12名
- ・ JICA日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修「ベンチャー創出とイノベーション・エコシステムの構築」 4名
- ・ JICA日系社会研修「小規模食品ビジネス開発」コース 7名
- ・ JICA長期研修員1名新規（パプアニューギニア）

12. 留学生宿舎

インターナショナルオフィスでは、現在3棟の留学生宿舎を管理・運営している。

大学施設としては香川大学留学生会館を1991年から運用しているが、2013年度より民間宿舎の借り上げを開始して受け入れ留学生のニーズに応えるようにしている。

各寮では、新入生が入居する4月と10月に全入居者を対象とした入居者ガイダンスを実施している。また、例年は学生主体による歓迎会や季節の行事（そうめん流し）も実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、これらの交流活動を実施することができなかった。

(1) 宿舎の概要

- ① 香川大学留学生会館
住所 高松市屋島中町
最大入居人数 32人
居室形態 個室

幸町キャンパスから8kmに位置し、香川大学屋島寮（男子寮）に隣接している。平日は管理人1名が常駐しており、管理人不在時の対応として、日本人学生1名レジデンスチューターとして入居していた。2020年度末に各居室に光回線を引き入れ、WiFiルーターを設置し、2021年度より使用可能な環境を整えた。主たる入居対象者を短期留学生としているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、交換留学生が入国できず、2021年度後期の入居者数は9名にとどまった。日本への入国が解禁となった場合には、多数の入居申請があると予想される。

② 香川大学花園寮

住所 高松市花園町

最大入居人数 15人

居室形態 個室

民間企業が単身用宿舎として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから2.4kmに位置している。2020年度末に各居室に光回線を引き入れ、WiFiルーターを設置し、2021年度より使用可能な環境を整えた。レジデンスチューターが寮管理の補助を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で留学生数が少ないこともあり、2021年度後期の入居者は6名にとどまった。

③ 香川大学上之町国際寮

住所 高松市上之町

最大入居人数 46人

居室形態 2人で一戸をシェア

民間企業が世帯用宿舎として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから3.7kmに位置している。留学生の生活をサポートすること、留学生とともに生活することで日本人学生の国際性を育てることを目的に、2人で1戸をシェアする「混住寮」とし、23戸46名分の居室と、共有スペースを設けた。各戸には、2人が共有で使用するダイニング、キッチン、シャワールーム等があり、個室も備えている。2020年度末に各戸に光回線を引き入れ、WiFiルーターを設置し、2021年度より使用可能な環境を整えた。レジデンスチューターが寮管理の補助を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年度後期の入居者は20名にとどまった。

(2) 地域との交流活動

各寮におけるイベントとして、そうめん流しを実施している。これは、学生と寮近隣の地域の方々との交流を図り、日本文化を体験することを目的として毎年実施しているものである。しかしながら2021年度も2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により対面で飲食を伴うこのイベントを実施することができなかった。

新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着き次第、引き続き実施していくのみならず、学生間同士や地域住民とのより良い関係構築のため、様々な交流活動を実施していく予定である。

13. 三木高校インターンシップ受け入れ

インターナショナルオフィスでは2017年度から香川県立三木高校生をインターンシップ生として受

け入れてきた。2019度からは総合学科2年生を半年間にわたって、月に一回程度活動を行うという形でのインターンシップを実施することとした。活動を踏まえて、生徒たちは成果報告書を作成し、さらにグローバル・カフェで実施する報告会で発表することとなっている。

2021年度も2020年度同様に新型コロナウイルス感染防止対応のために、対面で集まるガイダンスや歓迎会・懇親会などは開催ができなかった。外国人留学生と直接交流する機会がほとんど持てない状況ではあったが、留学生会館の入居者、および医学部の協力を得て、医学部の留学生と対話する機会を設けることができた。

インターンシップ生が取り組む課題としては、グローバル・カフェにおいてオンラインで実施する交流イベントの企画案作成を主たる活動にすえ、4人のインターンシップ生がひとつのチームとなって、1時間のイベントを作る課題を課した。

実施内容（参加生徒4名）	
2021年	
9月18日（土）	オリエンテーション 留学生会館見学・業務説明（ロン教授、杉浦さん）・入居者と懇談
10月5日（火）	グローバル・カフェの「スイスイイベント」視聴
10月9日（土）	グローバル・カフェの業務（IO豊田さん）
11月4日（木）	医学部留学生および留学生担当職員と対話・国際交流（和田教授）
11月11日（木）	グローバル・カフェのオンラインイベント「世界の収穫祭」視聴
11月13日（土）	イスラム文化について（尾上教授）、DRI Steps見学 生協食堂のハラール対応（大学生協・西山部長） ブックトーク『となりのムスリム』
12月12日（日）	英語プレゼンテーションコンテスト実施補助・見学
2022年	
1月21日（金）	グローバル・カフェイベント企画案提出期限
3月7日（月）	最終報告書提出期限
3月30日（水）	成果報告会

成果報告会には国際オフィス教職員7名と三木高校から7名の教諭が臨席した。インターンシップ生の発表に対しては、国際オフィス教員および三木高校長からの質問やコメントがあった。生徒たちには原オフィス長より、修証書が授与された。